

製品名: BCoR ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07518**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	192kDa

抗原情報

遺伝子名	BCOR
別名	BCOR; KIAA1575; BCL-6 corepressor; BCoR
遺伝子 ID	54880.0
SwissProt ID	Q6W2J9
免疫原	抗血清はヒト BCOR 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1231-1280

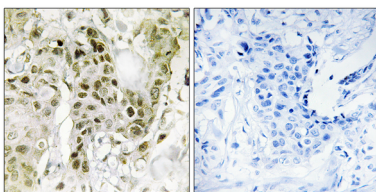
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、POZ/ジンクフィンガー転写抑制因子である BCL6 の相互作用コリプレッサーとして同定されました。BCL6 は、胚中心形成に必須であり、アポトーシスに影響を与える可能性があります。このタンパク質は、BCL6 の

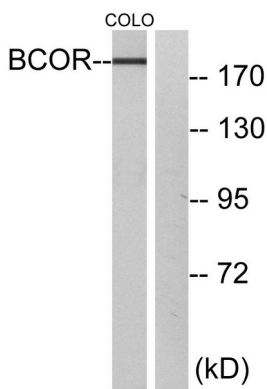
POZ ドメインと選択的に相互作用しますが、他の 8 つの POZ タンパク質とは相互作用しません。特定のクラス I および II ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) がこのタンパク質と相互作用することが示されており、2 つのクラスの HDAC 間に関連がある可能性を示唆しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションがみついています。この遺伝子の偽遺伝子は Y 染色体上にあります。[RefSeq 提供、2010 年 6 月]、疾患: BCOR の欠陥は、小眼球症候群 2 型 (MCOPS2) の原因です [MIM:300166]。小眼球症は、片眼が小さい状態から両眼の眼組織が完全に欠損している状態 (無眼球症) まで、臨床的に多様な眼形成障害です。多くの場合、小眼球症/無眼球症は、眼以外の異常を含む症候群と関連して発生します。MCOPS2 は非常にまれな多発先天異常症候群で、眼異常 (先天性白内障、小眼球症、続発性緑内障)、顔面異常 (細長い顔、高い鼻梁、先端の軟骨が分離した尖った鼻、口蓋裂、粘膜下口蓋裂)、心奇形 (心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、僧帽弁の弛緩)、歯牙異常 (犬歯根肥大、歯列発達遅延、乏歯症、乳歯遺残、歯根長の変動) を特徴とします。、function:転写コリプレッサー。 BCL6 や MLLT3 などの配列特異的 DNA 結合タンパク質によってプロモーター領域にリクルートされると、遺伝子発現を特異的に阻害する可能性があります。この抑制は、少なくとも部分的には、このコリプレッサーと関連するヒストン脱アセチル化酵素活性によって媒介されている可能性があります。、配列注意: 汚染配列。クローン内に相補鎖配列が存在します。、配列注意: イントロンが保持されています。、類似性: BCOR ファミリーに属します。、類似性: 3 つの ANK リピートを含みます。、サブユニット: アイソフォーム 1 は、MLLT3/AF9 と相互作用する可能性があります (類似性による)。 BCL6 と相互作用します。 HDAC1、HDAC3、HDAC5 と相互作用できます。少なくとも RYBP、PCGF1、RING1、RNF2/RING2 で構成されるポリコームグループサブ複合体を含む、抑制性 BCOR 複合体の構成要素です。、組織特異性: 普遍的に発現します。、

研究分野

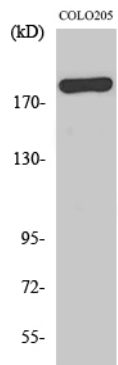
画像データ



BCOR 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



BCOR 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した BCoR ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。